

# 未来

郵政産業ユニオン  
**PIWO**

全労協・郵政産業労働者  
ユニオン長崎中野支部  
機関紙「みらい」  
NO. 4375  
23年8月22日(火)  
Tel・Fax 095-828-1953  
文責 支部書記長

## 日本の一番長い日 戦争の終わりと、 御前会議の決断！

おはようございます。  
今年が初盆で、遠くの家族が帰省し、賑やかな一週間だった。  
お盆といえば、先の大戦で昭和天皇が「終戦」のラジオ放送をした日で「終戦」記念日だ。戦争史では、九月二日の東京湾の米艦・ミズリー号の艦上での降伏文書調印式で正式な敗戦日だ。

戦争はどのように終結したのか。一九四五年七月十七日、連合国がドイツのポツダムに集まり日本への降伏通告を話し合う。これがポツダム宣言で七月二十六日に日本へ無条件降伏が通告される。しかし日本の鈴木首相は七月二十八日、これを黙殺し、戦争継続となる。

ところがこのポツダム会議中の七月十六日、アメリカは三個の原爆を完成させ、原爆は「ポツダム宣言黙殺」からわずか十一日後の八月六日に広島へ、九日に長崎に投下された。



八月十四日、日本では天皇も加わった御前会議で、ポツダム宣言受諾(無条件降伏)を決定し、十五日、天皇の「終戦」放送となる。  
ではなぜここまで宣言受諾が遅れたのか。日本はなにを考えていたのかだが、最大は宣言に天皇制維持の明言がなかったからである。歴史本をみる。



藤原彰の「太平洋戦史論」には、「七月二十六日のポツダム宣言の黙殺をした政府は、原爆投下、ソ連の参戦を受けて、八月九日から十日に御前会議を開いた。原爆投下による国民の被害に苦心を示さなかった支配層は天皇制と国体維持のみ関心があつた。八月十一日、米国の國務長官の回答文で、天皇制の存続の可能性が示され、十四日の御前会議でポツダム宣言受諾が決定した」とある。

三百万人を超える。戦争は一九四四(昭和十九)年十月のレイテ沖海戦の敗北で日本海軍は事実上壊滅し、制海権、制空権を失う。同年十一月から日本本土への空襲が始まったとき、日本の敗戦は決定的であつた。

一方、日本の戦争加害では、アジア人の死者は二千万人とされる。さらに一九三九年から一九四五年の敗戦までの間、朝鮮人の日本への強制連行者は七十二万人を超え、うち炭鉱労働者が三十三年表から)。

ところが日本軍は一億玉砕を唱え、原爆投下後も、「二千万人の特攻隊で米軍を粉碎せよ」と叫んでいた。(神風特攻隊を作つた大西中将)(大森実の「戦後秘史」。この間、四月〜六月に沖繩戦があり、島民の四分の一の二十万人が殺された。

八月十四日の御前会議だが、大森実の『戦後秘史』(天皇と原子爆弾)によれば、最後は「このままでは東京に原爆が投下され、国が滅ぶ」ということで、天皇が終戦を決定し、八月十五日、天皇が「終戦」をラジオで放送したのだ。

四十六回目の大本営発表で、「わが航空部隊は鹿島灘沖で敵艦を大破させた」と放送したとある。  
天皇の戦争終結宣言は、十四日に録音済みであり、国の方針は決まっていたが、この日も軍部は「勝つた、勝つた」と誇大宣伝に終始し、国民はそれを信じ込まされていた。  
いつの世も、戦争を進める人は、「相手が攻撃してくる」と国民の不安をあおり、ニセ情報を流す。今も昔も同じだ。  
この長く暑い夏の八月十五日は、戦史として多くの本で語られているが、国民と政府が「二度と戦争はしない」という固い決意に結びつかなければ、三百万人の死者という尊い犠牲が無に帰すし、戦争の反省とはならない。

大戦中、空襲は連日続き、一九四四年十一月から敗戦まで、原爆被害を除き、本土の空襲被害は少なくとも死者二十九万人、家屋全壊焼二百二十一万戸、罹災者九百二十万人といわれる。(東京空襲を語る会)から)。これは国内のみで、朝鮮、中国、満州などの被害は別だ。

八月十五日の日本の動きは、歴史家・半藤一利の「日本の一番長い日」で詳しいが、正午の天皇のラジオ放送の直前の十時半には、開戦以来八百



あらためて戦争で亡くなられた三百万人に不戦を誓い、合掌。

仲間と競争せず、弱い立場の人と共に団結して闘おう。  
期間雇用社員の希望者全員が正社員化を。  
めげず、均等待遇、なぐさみ差別！ ユニオンは労基法裁判に勝利すべし！

